

別記様式

		担当課	総合政策課
会 議 の 名 称	令和7年度第1回鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会		
開 催 日	令和7年7月9日（水）		
開 催 時 間	午前10時00分～午前11時50分		
開 催 場 所	鴻巣市役所本庁舎3階 303会議室		
議長(委員長・会長)氏 名	なし		
出席者(委員)氏名 (出席者数)	齋藤 宏樹 河野 廣 浅尾 桃子 伊藤 誠 吉田 大樹 永井 孝 小澤 康人 大司 敬丈（代理） 坂田 直人 伊藤 恵 荻原 秀史 小林 美鈴 計12名		
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	佐藤 百合子 計1名		
事務局職員職氏名	市長政策室長 藤崎 秀也 市長政策室副室長 小川 裕子 総合政策課長 吉野 智和 総合政策課副課長 新井 哲弘 総合政策課副課長 齋藤 則考 総合政策課副主査 神成 洪作 環境経済部参事兼環境課長 小林 勝 環境課副参事 田村 邦博 環境課主任 栗原 莉沙		
傍聴の可否 (傍聴者数)	可（0名）		
会 議 の 内 容	1 開会 2 あいさつ 3 委員紹介（自己紹介） 4 議題 （1） まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和6年度実績報告） （2） 地方創生関係交付金の活用事業について （3） 市の鳥の指定について 5 その他 6 閉会 【次第4 議事】 （1）まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和6年度実績報告）について、事務局から報告を行い、委員から質問・意見をいただいた。 ・成果指標にある観光入込客数については、どのように試算しているのか？花火大会の来場者も含まれているのか？ →国（観光庁）の基準を基に、市で行われたイベントの参加者や観光施設の利用者状況から算出している。花火大会についても、主催者が発表した数値が反映されている。 ・子育てしやすいと思う保護者の割合が下がっているが、どのような要因が考えられるのか？また、これに対して、市ではどのような対応を行うのか？ →まちづくり市民アンケートの結果だと、子育てに関する経済的な支援が少ないこと、子どもが安全に遊ぶ身近な施設が少ないこと、子ども連れで気軽に利用できる公共施設が少ないことなどがあげられている。市では、「こどもまん		

なか社会」の実現を目指し、施政方針においても、こども・若者、子育てにやさしいまちづくりを掲げ、各種事業を展開している。一方で、経済的な支援について、市でも、国の臨時交付金を活用して、給食費の物価高騰分を抑えるための助成は行っているが、近隣自治体の中には給食費そのものを無償化し始めたところもあるので、物足りなさを感じているのかもしれない。給食費の無償化などの実施は自治体の体力勝負になってしまい、実現は難しいところもあるが、給付だけでなく、実施可能な子育て支援を進めていきたい。

- ・学校での生活に満足していると回答している児童生徒の割合が高い水準にある。地域の皆さんの協力もあり、学校関係者としては、大変ありがたいことだと捉えている。一方で、学校応援団やボランティアの方々の高齢化や減少している状況もある。子どもたちにとっても、ボランティアの方々との体験活動は充実したものであり、継続し、残してあげられるようにしたい。
- ・自治会加入率が下がっているが、自治会に入らなくてもごみの回収は市が行ってくれるので、自治会に入らなくてもいいと考える人たちも増えている。自治会の事業も減り、魅力が少なくなってしまうことも要因と思われる。子育てに不安を持つ親も増えている。地域と繋げていく仕組みづくりが大切であり、課題と考える。
- ・地域に目を向けるイベントとして、花火大会などを行っているが、市内の新築マンションにおいて、花火が見えるテラスが広告に掲載されており、花火大会が市を選ぶ魅力の一つに成長したのかなと実感している。準備や片付けには中学生も参加してもらっているが、良い思い出や地域に愛着を持つきっかけになって欲しい、と考えている。
- ・遊休農地面積が減っているが、農地中間管理機構を通じ、多面的整備が進めており、良いことだと捉えている。今年に関しては、米価も上がっており、生産者としては意欲が上がるものである。身近に「花」や「緑」に親しめる環境があると思う割合は若干下がっているが、花を育てる、飾るなど、花が身近にある生活を送る割合は増えている。花の生産者からは花が売れなくなっているという話も伺うので、花をもっと買ってくれると良いなと思う。
- ・事業所数について、別の市のアンケートでは、廃業意向があると回答した方も一定数いた。評価として、事業所は増えた方が良いと思うが、時代の変化もあり、事業承継や赤字、低賃金などの課題を抱えたまま続けることが良いことなのかとも思うし、指標の結果をどのように読み取り、対応していくのが良いか、難しいなと考える。
- ・事業承継は難しい課題であり、法人が減少している実態はある。一方で、創業も増えている。社会環境も変化しており、何かを生産するだけが仕事ではなく、DXも進み、個人が家で仕事ができる時代である。鴻巣市については、花火や花のイベントを実施できるだけの人材に恵まれたまちである。職住近接・一体は市の強みであり、個人創業を支援していくことにもメリットがあると思われる。

(2) 地方創生関係交付金の活用事業について、事務局、担当課（環境課、商工観光課）から報告を行い、委員から質問・意見をいただいた。

【このとりの里づくり】

- ・減農薬、無農薬に取り組む栽培面積などを KPI にしているが、施設見学や環境教育にも力を入れており、子どもたちの意識の醸成に繋がっていると思われる。

	る。このようなものを KPI に取り入れることはできないか？ →交付金の KPI は当初に定めたものなので、変更は難しいが、学校による見学実績や子ども体験はアンケート収集しているので、今後の成果指標について検討したい。 (3) 市の鳥の指定について、事務局、担当課（環境課）から報告を行い、委員から質問・意見をいただいた。 ・市の名前の由来の一つでもあり、市だけでなく、環境団体も含めて、コウノトリを育むための取組を進めてきたストーリーがある。総合的な観点から良いと考える。 ・市民にとってもコウノトリは浸透していると思われる。学校や保護者も巻き込んで、子どもが親しめる環境づくりや地域に愛着を持てるような取組について、一体的に進めていくのが良い。 ・全国的にコウノトリを飼育している自治体では自治体を象徴する鳥として指定しており、良いと考える。野生のコウノトリが市内に飛来しており、飛来マップを作り、子どもたちが観察できる媒体を作ってあげると面白いと思われる。 以上
配布資料	・ 次第 ・ 令和 7 年度 第 1 回鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会出席者 ・ 令和 7 年度 第 1 回まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会レジュメ ・ 第 2 期鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ・ 参考資料 地方創生 2.0 概要